

航空写真で見るハイジア・大久保病院と歌舞伎町（2）

《戦災復興後の航空写真》【昭和 36 年（1961 年）頃の航空写真】



（出典）「新宿区 15 年のあゆみ」（新宿区）

【航空写真】

- 新宿駅西口方面から新宿駅東口及び現歌舞伎町地域を記録した昭和 36 年頃の航空写真（開業 82 年目）

【説明】

- 写真の左上方に、東急のスケートリンクとコマ劇場の大きな建物が写っていますが、その奥に 2 列建物が並んでいるところが大久保病院です。昭和 4 年に建設された本館が戦災を逃れ、そのまま使われているのが分かります。
 - 新宿駅東口は、現ルミネビルへの建替工事中（完成は昭和 39 年）。西口駅前の整備はまだ進んでいません（小田急ハルクは昭和 37 年、小田急百貨店は昭和 40 年に完成）。西武線は昭和 27 年に西武新宿駅まで延伸しています。
 - 歌舞伎町地域は、ミラノ座やコマ劇場もオープンし、まちづくりはほぼ完成していますが、まだ付近に高層ビルはありませんでした。
 - 歌舞伎町 2 丁目地域は、一部にビルはあるものの、高い建物はありませんでした。
- なお、写真では分かりませんが、昭和 22 年に「芙蓉館」（進駐軍兵士の慰安施設）が、旧グリーンプラザの場所（旧ミラノ座の北側）にできて以来、その後背地として、旅館街に変貌しました（「新宿区史」（昭和 30 年）にその状況が記録されています。）。昭和 28 年の写真では 2 軒のホテルの看板が写っています。また、売春防止法の施行に伴い、昭和 33 年に赤線が廃止されたことにより、歌舞伎町地域全体の歓楽街化が一気に進んだということです。（なお、芙蓉館は「写真で見る大久保病院の今昔（1）」の真ん中の写真に写っています。）

歌舞伎町

新宿駅前の雑沓を離れて、富士銀行横の小路を抜け、都電停留所を過ぎ、地球座・新宿劇場・スケートリンク等の娯楽街を左に見て、更に奥へと行くと歌舞伎町一帯に入ってしまう。丁度大久保病院の正面にあたる地域である。元は都立第五高女の校舎が建っていたが、戦災で全焼し焼野原となってしまった。其の地に昭和二十三・四年頃からであろうと思うが、赤いモルタル塗の洋風建築、或は大料理店と思われるような旅館が軒を列ねて建築された。俗に青線区域と呼ばれている地である。曰くホテル何々とか、或は又外国の地名をとり異国的情緒を奏するような名が、ネオン燦めく頃ともなれば、いやでも目に入ってくる所であり、昼間は殆んど人通りはなく、ホテルの色とりどりのカーテンが半ば開かれているだけである。数十軒までは無いかも知れぬが、そも／＼非合法の営業でありその実態を把握し難いのは止むを得ない。

如何にも新開地のようにあり、日本的建築があると思えば、アメリカ風のホテルもあり、殺風景な街ではある。また整地もされていない焼跡には、コの字型の土台が崩れかけ、雑草の茂るまゝであり、塵芥が投げ捨てられている。新宿区の市街が復興したとはいえ、まだ焼跡は整地されてなく放りっぱなしになっており、門柱だけがボツンとしている所は多々ある。新築した家も焼失前の家屋という訳にはいかない。歌舞伎町を出て大久保に入ると途端に人通りは繁くなるが、商店街をみると店だけは立派だが、十二・三坪位の家である。焼トタンにコートールを塗ったまゝの家もあつて、いかにも戦後の住宅を思わせる。

（出典）「新宿区史（昭和 30 年）」（新宿区）



西武新宿駅周辺の風景（昭和 28 年）（出典）「ステーション新宿」（新宿歴史博物館）